

社会産業理工学研究交流会へようこそ！ ～シーズとニーズのマッチング、さらにその先へ～



皆様のおかげをもちまして、本年も社会産業理工学研究交流会を開催する運びとなりました。ご出展・ご参加の皆様には、誠にありがとうございます。今夏も社会産業理工学研究部と徳島大学の関係組織が一体となって、産官学の貴重な出会いの場を開催できますことに心から感謝申し上げます。

さて、目を世の中に転じてみますと、2020年の東京オリンピック開催に向けて競技施設の準備に拍車もかかり、入場券の販売価格も発表されるなど具体的な動きが見えつつあります。一方、今夏も未曾有の災害が日本列島を襲っています。この7月6日に最初の大雨特別警報が出て以来、西日本を中心とします豪雨の土砂災害は全国31道府県で計1,000件以上にのぼり、それだけで過去10年間の年間平均約1,100件に迫る規模と新聞が伝えています。さらに、社会と産業の生業に思いを馳せますと、旧態然として歴史と伝統のままに日々の生活を紡いでいける業種は極めて少なく、生き残りをかけて変化や革新が求められる毎日です。

大学も日々改革に取り組んでいます。昨年文部科学省の「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会」は中間まとめを発表しています。そこでは学科の縦割り構造の見直し、学士・修士の6年一貫制、副専門分野の修得、情報科学技術の基礎教育強化などが謳われています。平成28年の学部再編・新設に続いて、現在私どもが目指す大学院再編・改組の方向性の一端が示されているものと考えています。こうした大学改革の一環として、昨春常三島地区に存立する文系と理系の旧研究部と技術職員の組織を統融合して、新たな教職員の組織である「社会産業理工学研究部」を設けました。本研究部の多様な研究成果を社会に公開し研究活動に対する理解を深めていただくとともに、学内外の研究交流、産官学金連携の推進を目的としてこの研究会を開催します。その出展内容は研究部の成果のみならず、情報センター、環境防災研究センター、創新教育センター、産業院、大学支援機構等からも出展されます。それと共に、当研究部の若手研究、先端理工学教育研究プロジェクトに関する研究発表に大学院博士後期課程学生、研究支援・産官学連携推進センター等や阿波銀行学術・文化振興財団研究助成採択者、日亜化学工業教育研究助成基金「若手教員海外派遣支援事業」採択者等の研究成果、さらに学外からは香川大学創造工学部の方々によりますポスター発表と、優れた出展が目白押しです。また、今後の活躍が期待される若手教員による講演発表会、ならびに特別講演では、株式会社言語理解研究所 代表取締役 CEO の青江順一氏（徳島大学名誉教授）にご講演いただきます。

本研究交流会が上記の目的に叶い、企業・他機関等との連携研究、共同研究、技術移転ならびに製品開発等の実用化研究を促し社会に貢献できれば大きな喜びです。本学教職員、学生、大学院生はもとより、学内外連携機関や企業等から多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

大学院社会産業理工学研究部長 河村保彦